



上賀茂だより

令和6年1月10日(水)
京都市立上賀茂小学校
校長 滝山 泰教

学校教育目標「人とつながり、自らの未来を創造する子どもの育成」
～ 自ら、考え、判断し、実行する ～

全国学力学習
状況調査の結果

〒603-8073 京都市北区上賀茂烏帽子ヶ垣内町1

TEL 711-0804 FAX 781-0480

上賀茂小学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamigamo>

(携帯電話・スマートフォンからもご覧になれます。)



4月18日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語科・算数科)

国語・算数、共に、全国平均を上回っています。昨年度と同様に無解答率も低く、子どもたちが問題にしっかりと向き合い、最後まであきらめずに取り組もうとしていたことが分かります。

国語科より

全体的によくできています。特に、送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことや、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することがよくできています。



しかし、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。日頃の授業の中で、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を必要に応じて提示し、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを子どもたちに実感させることも大切だと考えています。子どもたちの実態をしっかり把握し、これからも丁寧に指導していきたいです。

算数科より

全体的によくできています。特に、伴って変わる二つの数量関係に着目して答える問題では、表から変化の特徴を読み取ったり、表の中の数を適切に選んだり求めたりすることがよくできていました。また、正方形や三角形などの図形について、意味や性質についてもよく理解することができています。

しかし、具体的な数値が示されていない問題では、必要な情報を見いだして答えていくことに課題が見られました。算数科のみならず様々な教科の学習において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように、これからも指導していきたいです。



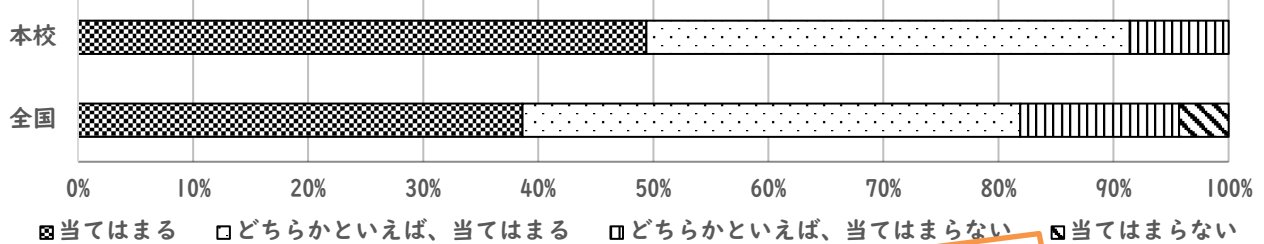
「令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について」

※ 京都市教育委員会ホームページにおいても掲載しています。

URL <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>

児童質問紙
調査より①

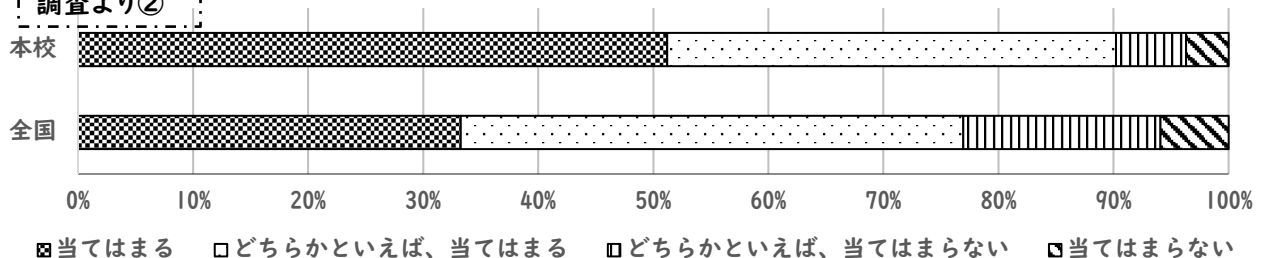
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



この質問では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合が90%を超えています。「友だち関係に満足していますか。」の質問に対しても、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合が97.6%となっています。6年生の児童が、入学以来、より良い友達関係を構築し、日々の学校の授業で学びを深めてきたことが分かります。

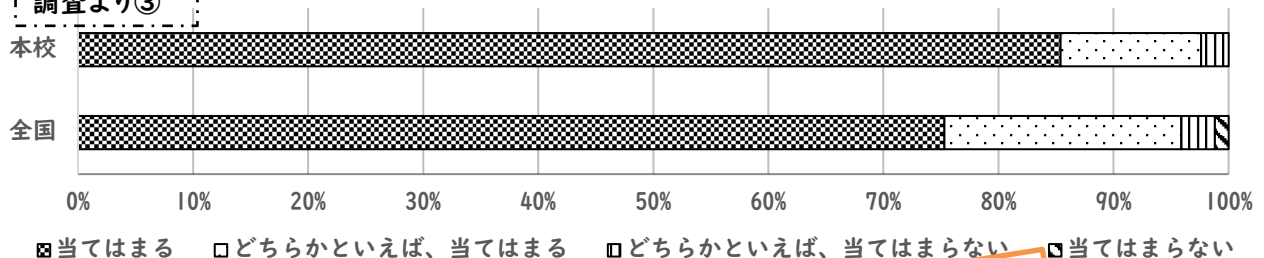
児童質問紙
調査より②

○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



児童質問紙
調査より③

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



「地域や社会に貢献したい」「人の役に立ちたい」と思う児童の割合が高かったです。学校教育のみならず、家庭での子どもたちへの関わりや、地域の方々の温かい見守りや支えがある中で、本校の子どもたちが心豊かに成長していると感じます。子どもたちもいずれは社会に出ていきます。これからも、学校・家庭・地域が連携・協力しながら、子どもたち一人一人が未来に希望をもち、夢に向かって自ら道を切り拓いていく力をつけていきたいと考えています。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、また、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。学校教育目標の「人とつながり、自らの未来を創造する子どもの育成」を目指して、今後ともご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

